

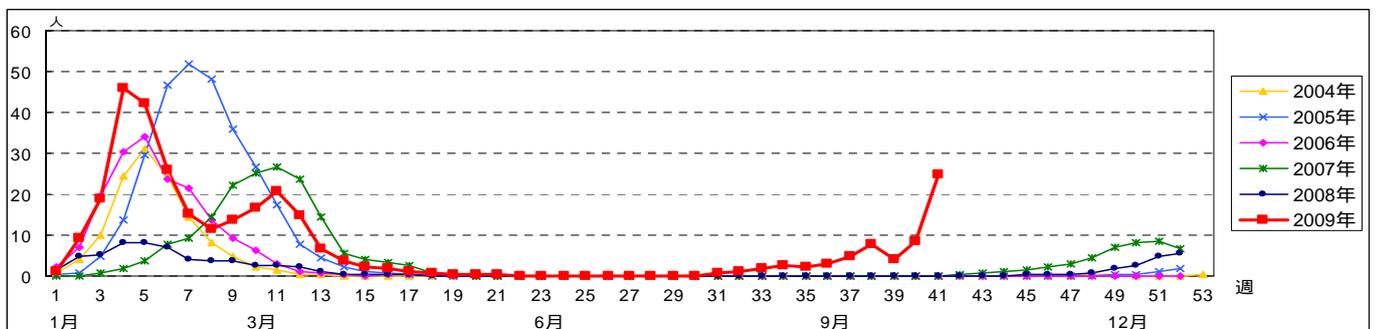
# 横浜市インフルエンザ流行情報 5 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

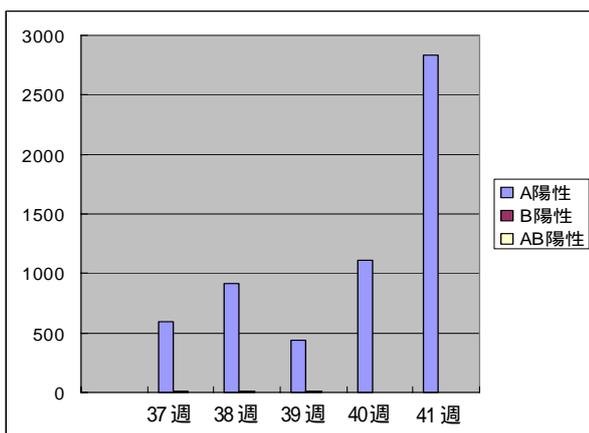
- 1 インフルエンザの定点医療機関あたりの報告数が、流行注意報レベルを超えました。
- 2 市内からの施設閉鎖報告数も増加しています。
- 3 重症者は、比較的年長児に見られています。

- 市内流行状況については、第32週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数1を超え、第41週(10月5日からの週)には24.89と上昇し、流行注意報レベルである「10」を超えています。2007年の季節性インフルエンザのピークに迫る勢いです(図1)。
- 第41週の迅速診断キットでは、A型が2830件、B型が3件、A型B型とも陽性が3件で、殆どがA型でした。過去5週分の報告でも同じく殆どがA型でした(図2)。この時期の病原体定点からの遺伝子解析では、すべてAH1pdmでした。
- 過去5週分の年齢層別集計報告では、20歳以下の感染が多く報告されています(図3)。
- 市内の学校等施設閉鎖報告数は、第41週になり急増しています(図4)。
- 行政区別としては、都筑区が40.33、青葉区が40.27、緑区が35.00など6区において警報レベルである「30」を超えています。注意報レベルに達していない区は、中区の5.00と、西区の7.60の2区のみでした(図5)。
- 入院サーベイランス情報によると、市内の重症者は比較的若年に見られます(図6)。

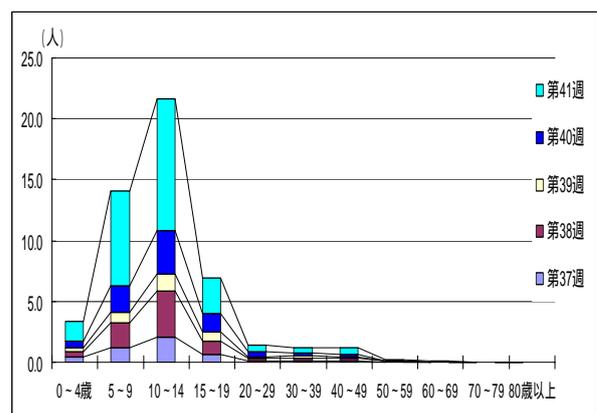
1 市内145か所(小児科88か所)の定点医療機関からの報告(図1)



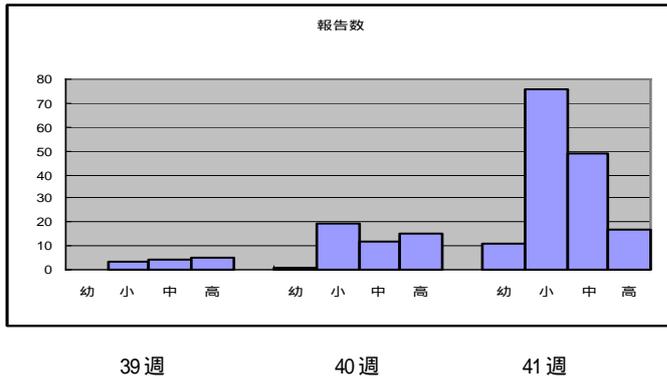
2 過去5週の迅速診断キットの結果(図2)



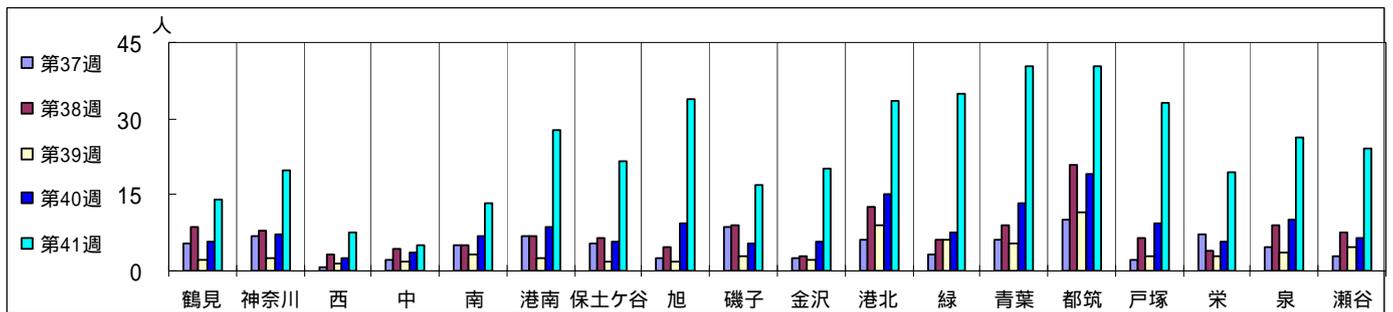
3 過去5週分の年齢層別集計報告(図3)



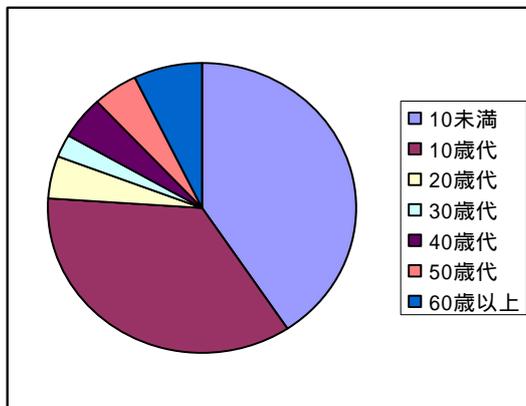
4 幼稚園 小学校 中学校 高等学校の 週間学級学年閉鎖数 (図4)



5 行政区別情報 (図5)



6 入院サーベイランス情報(図6); 20歳未満が76%を占めています。すべてに A H1pdm が認められています。



市内の状況については <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html> を

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/>

全国の集団かぜの状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

横浜市健康福祉局 健康安全課

TEL 045(671)2463

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

TEL 045(754)9816

検査研究課ウイルス担当 TEL 045(754)9804